

社会資本総合整備計画 中間評価書（Ⅱ期）

平成29年4月1日

計画の名称	66 産業拠点へのアクセスを改善する道路整備															
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）					交付団体	牧之原市									
計画の目標																
大規模工場増設、工業団地造成による産業拠点の本格稼働に合わせ、通勤車両並びに製造部品納入トラック等の円滑な交通を確保するとともに、周辺道路の整備を行うことで、地域内の安全安心な交通を確保す																
計画の成果目標（定量的指標）																
・ 産業拠点へ向う車両の分散化 ・ 産業拠点へのアクセス時間の短縮																
定量的指標の定義及び算定式																
交通結節点（東名高速道路相良牧之原IC及び御前崎港）から産業拠点入口までの走行時間の短縮 現況走行時間－完成後走行時間										定量的指標の現況値及び目標値					備考	
										当初現況値		中間目標値		最終目標値		
										(H26当初)		(H28末)		(H30末)		
										0分		—		6分		
全体事業費	合計 (A+B+C)		2,768 百万円	A	2,768 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C／(A+B+C)		0.0%				

中間評価

○事後評価の実施体制、実施時期

中間評価の実施体制	中間評価の実施時期	平成28年度
有識者からの意見聴収を実施する。	公表の方法	評価完了後、市のホームページに掲載予定。

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A 基幹事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 団体	直接 間接	事業 主体	道路 種別	省略 工種	率 (基本)	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
												H26	H27	H28	H29	H30		
66-A1	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	0.55	(他) 壺丁田北線	バイパス L=0.773km	牧之原市						1,410	1期からの継続事業である。
66-A2	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	0.55	(他) 大倉壺丁田線	バイパス L=1.545km	牧之原市						1,180	
66-A3	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	0.55	(1) 東萩間西原線	道路改良 L=0.675km	牧之原市						178	
												合計					2,768	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 団体	直接 間接	事業 主体	省略 工種	率 (基本)	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
											H26	H27	H28	H29	H30			
												合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

C 効果促進事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 団体	直接 間接	事業 主体	省略 工種	率 (基本)	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
											H26	H27	H28	H29	H30			
												合計					0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

その他関連する事業

[illegible]

A'	0 百万円	B'	0 百万円	C'	0 百万円	効果促進事業費の割合 (C+C') / ((A+A') + (B+B') + (C+C'))	0.0%
----	----------	----	----------	----	----------	---	------

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・(他) 竜丁田北線新設により、産業拠点への通勤車両や製造部品納入トラック等の交通が分散され、産業拠点周辺道路での渋滞が解消し、アクセス時間の短縮が図られた。 ・道路のバイパス整備により産業拠点への通勤車両並びに製造部品納入トラック等の交通が分散され、円滑で安全な交通が確保された。			
II 定量的指標の達成状況	産業拠点への アクセス時間 の短縮	中間目標	-	目標と実績値 に差が出た要因	本計画の路線周辺の地域高規格道路 国道473号バイパスも整備されたことにより、更なる交通分散が図られ、目標を上回る走行時間の短縮となった。
		中間実績値	1 1 分短縮		
		中間目標		目標と実績値 に差が出た要因	
		中間実績値			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の 発現状況 (必要に応じて記述)		・(他) 竜丁田北線新設により、産業拠点周辺道路の渋滞を抑制し、地域の生活環境の向上を図ることができた。 ・周辺道路の歩道や橋梁の整備・修繕により、地域内の安全安心な交通が確保された。 ・道路整備により道路の選択肢が増え、渋滞区間の走行車両等が減ったことで安全性が高まり、交通事故件数が削減された。 ・(1) 東萩間西原線の道路改良においては、歩道がなかった区間に歩道が設置され、安全な歩行空間が確保されるようになった。 ・道路混雑の緩和による自動車の速度向上に伴い、CO₂、NO_x、SPM排出量が削減された。 ・事業の投資効果(事後評価実施時期:平成28年) - 竜丁田北線・大倉竜丁田線整備後(B/C)=1.24 - 竜丁田北線・大倉竜丁田線評価年時点(B/C)=1.30 竜丁田北線整備後(B/C)=1.59 大倉竜丁田線残事業分(B/C)=1.12			

3. 特記事項（今後の方針等）

- ・(他)大倉壺丁田線、(1)東萩間西原線は事業を継続し早期工事完了をめざす。
- ・(他)大倉壺丁田線は、産業拠点から主要幹線道路へ直結するアクセス道路となるため、交通網の整備による走行性向上や輸送リスク低減が図られたため、工事の早期完了を目指す。
- ・物流の円滑化がさらに期待されるため、産業拠点と交通結節点とのアクセス道路の整備や、現在検討されている整備事業区域周辺をはじめとした産業誘致などの施策の積極的な展開により、地域産業の活性化を図る。

- ・1期計画において、平成25年で（他）荻丁田北線、（他）大倉荻丁田線のバイパス整備及び（１）東萩間西原線の道路改良整備が完成せず、平成26年以降も継続して事業を行った。
- ・平成28年3月末に（他）荻丁田北線の整備が完了し、平成28年4月に供用が開始されたため、事後評価を行うこととなった。さらに、（他）大倉荻丁田線整備後を想定し、本計画の中間評価を行った。

(様式第 8)

社会資本総合整備計画 参考図面

計画の名称	66 産業拠点へのアクセスを改善する道路整備		
計画の期間	平成26年度～平成30年度	交付団体	牧之原市

